第７９号
2020年8月1日
発行

同推くん

発行・編集
海蔵地区人権･同和
教育推進協議会
広報部
事務局地区市民センター内
電話　３３３－８７７０

海蔵地区人権・同和教育推進協議会２０２０年度の事業活動

海蔵地区の皆様におかれましては、平素より海蔵地区人権・同和教育推進協議会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

6月1日(月)に開催予定しておりました「海蔵地区人権・同和教育推進協議会2020年度総会」は、新型コロナウイルス感染防止緊急事態宣言により、やむなく総会の開催を中止し、書面による決議を実施しました。

その結果、委員の皆様のご理解とご協力をいただき、　本年度の体制案、事業実施計画案及び収支予算案が承認されましたことをご報告申し上げます。

本年度の主な事業活動予定は次の通りです。

【地区懇談会】

新型コロナウイルス感染防止の観点から、本年度開催予定の野田･清水ブロック、末永･本郷ブロック、西阿倉川ブロックはすべて中止とさせていただきます。

【人権を考える集い】

本年度は「ＲＡＭＯ」の人権コンサートを10月3日(土)に開催予定しております。6月19日に政府が求めていた県境移動が解禁となり、同時にイベント開催条件も緩和されました。今後日々変化する状況を判断しながら、四日市市の指針を遵守し、実行委員会で感染対策の配慮が出来ることを条件に、開催に向けて準備を進めてまいります。

【機関広報紙「同推くん」の発行】

本年度も4月、8月、12月の年3回発行を予定しております。広報部では、皆様のご意見やご質問も是非取り上げたいと考えておりますので、地区市民センター内･海蔵地区地域団体事務局宛にお便りをお寄せください。

さて世界を震撼させた新型コロナ、いわゆるコロナ禍は、私たちの生活環境に大きな変化をもたらしました。テレワーク（在宅勤務）が広まり、子どもたちの学校教育、企業の業務の在り方、会議や集会等が見直され、ＩＣＴ化へのシフトなど検討されるようになりました。人は一度便利なものに慣れるとなかなか後戻りが出来なくなります。これからの働き方が新型コロナ禍をきっかけに大きく変わるかも知れません。

昨年の人権を考える集いは「インターネットと人権について」がテーマでした。講演の中で「ＳＮＳ等の書き込みは、不確かな情報やにせの情報を信じ込んで拡散したり、誹謗中傷のリツイートが大きなトラブルになる」という指摘がありました。今回の新型コロナウイルス感染症に関した偏見や差別的な言動やＳＮＳ等の書き込みもゼロではありませんでした。感染された方やその家族、最前線で治療に当たっている医療従事者とその家族、海外からの帰国者、日本に居住している外国人などに対する根拠のない書き込みや、誹謗中傷が見受けられました。医療従事者の子どもが保育園側から登園を拒否された事例は、不確かな情報を判断基準にしたところに問題がありました。お笑い芸人の深夜ラジオでの女性蔑視発言は本人の無責任な妄想であって、笑って済まされる問題ではありません。
未知の怖さがある新型コロナウイルス感染は人を不安にさせます。

このような時こそ、私たちは不確かな情報や誤った認識に惑わされず、国や県・市が発信する正確な情報に基づき、冷静な対応とお互いの人権を尊重した行動に心がけたいものです。

本年度も皆様と一緒に人権について学んでいきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。（Ｆ）

新型肺炎コロナに思う事

２０２０年が明けて新しい年が始まりましたが、恐しい事が起りました。２０１９年１２月末から 中国湖北省武漢市で発生した原因不明の肺炎は 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)が原因であることが判明しました。中国から流行が始まり、あっという間に世界に広がりました。日本では２０２０年１月１５日に感染が確認され、多くの感染者が報告されました。４月７日に緊急事態宣言が発令されました。私にとっては始めての体験です。学校が休校になり、各種イベントも中止になり、デパートも休業です。在宅勤務できる人は在宅勤務になり、車の数もどんどん少なくなりました。オリンピックも延期になり、四日市での聖火リレーを楽しみにしていたのにとても残念です。色々な言葉も覚えました。パンデミック、ロックダウン、ソーシャルディスタンスなどです。

コロナの流行のせいかと思うと少々複雑な気分です。外出時にマスクは必須アイテムです。自宅でステイホームです。おうち時間を楽しく過ごさなければなりません。私はジグソーパズルに挑戦しました。10日位で完成！達成！　そんな毎日が続いたお天気の良い日 海蔵川に散歩に行きました。今年は海蔵川の桜まつりは残念なことに中止になってしまいましたが、やっぱり今年も桜はきれいに美しく咲いていました。 帰り道に色々考えました。人間は案外新しい環境にすぐに慣れるものだと思いました。 それから私達の今までの生活はあまりにも恵まれすぎていたのではないでしょうか？ それに満足することなく不平不満ばかり口にしていた自分を恥ずかしく、情けなく思います。生きているだけで十分じゃないですか？　今後は第二の人生を与えられたと思い、新しい生活様式を踏まえ、働ける喜びを噛み締めながら、自分なりの生活を充実して生きていこうと思います。
世界各国、日本にもまだたくさんの方々が、コロナの為に闘病生活を余儀なくさせられています。
どうぞ どうぞ ご無事で 一日も早い回復をお祈り申し上げます。（O）

海蔵地区の皆さまへ

地区懇談会の中止について（お知らせ）

今年7月17日（金）、8月21日（金）及び9月11日（金）に開催を予定しておりました地区懇談会につきまして、次のとおり中止させていただく事にしましたのでお知らせします。

新型コロナウイルス感染予防及び拡散防止の観点から、６月役員会において協議をいたしました結果、参加者の皆さまならびにスタッフの健康および安全を最優先に考慮し、開催を中止させていただくことになりました。

なお、今年度中における地区懇談会の振り替え実施に関しましては、予定をしておりませんので、ご了知をお願いします。

◎同推くんのバックナンバーは、『かいぞう地区』のホームページからご覧いただけます。
http://www. kaizotiku. org/

『あまびえ』てなあに？

～新型コロナウイルス感染症の収束を願って～

　新型コロナウイルス感染症のニュースばかりの最近、『あまびえ』という名をたまに聞くことがあります。
ちょっとネットで検索すると、興味ある記事がありました。『あまびえ』のご利益も？コロナ収束が近いと予言できる３つの科学的根拠』
（著者：鈴木　貴博：百年ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ代表）

アマビエの出現を伝える瓦版[注1]
弘化3年4月中旬（1846年5月上旬[注2]、江戸時代後期）刊行。木版画。京都大学所有、京都大学附属図書館収蔵。

『あまびえ』とは、江戸時代後期、現在の熊本県の海に出現したという伝承のある妖怪で人魚のような外見で、くちばしがあるのが特徴です。
　その姿を絵に描いて流布すると疫病がやむという伝説から、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めたころから、全国的に人気者になったそうです。
　４月に緊急事態宣言が出されると、厚生労働省は『あまびえ』をSNSでの啓発キャラクターに起用して、外出自粛を呼びかけるようになりました。全国的に見ても、鹿児島では小学校の校庭に『あまびえ』の地上絵を描いた、岩手県では南部鉄器の置物がつくられた、徳島県ではお酒のラベルになったなど『あまびえ』で退散させようと盛り上がっています。しかし、江戸時代の疫病についての伝承である『あまびえ』が、現代でなぜこれだけ流行するのでしょうか。
　理由の１つは、伝承では、江戸後期の肥後の国に出現した『あまびえ』が　”これから先に疫病が流行する”と予言したうえで、”疫病を終息させるためには、自分の姿を絵に描いて広めるように”と対策を伝えたと言われています。現代ではSNSなどによりイラストを上げて拡散させるという、社会環境にぴったり合致していたので、多くのイラストレーターがそれに倣って、『あまびえ』の画像をアップする現象がおきました。
　もう１つの理由として、新型コロナウイルス対策としてやれるのが家に籠っているしかないということです。それは、いままでの災害と比較するとよく分かります。これまでの地震、大雨などで土砂に家屋が埋まったら掘り返す。建物が倒れたらそれをかたずけ、新しくレンガを１つずつ積むことから始まる。生き残った者たちは何かを始めることで、乗り越えていけたのです。しかし、新型コロナウイルスは、私たちが生きてきた半世紀以上の時代で、初めて”社会のために何もするな”と呼びかけられた災害です。例えは悪いですが”何もしないでくれ”と会社側から言われたいわゆる窓際族の会社員のような気持ちです。だから『あまびえ』を描こうとたくさんの人が思うようになったのでしょうか。

　そこで、この著者は新型コロナウイルス感染症の収束は近いと予言していて、３つの科学的根拠を示しています。
　1つ目は、4月8日の緊急事態宣言の後、感染拡大の中心だった東京都での実行再生産数が１を割ってきたということです。実行再生産数とは、１人の感染者が何人の人にウィルスをうつすかを示す数字です。これが１より小さければ、新規の感染者数は２週間後には減少します。
　２つ目に、新型コロナウイルスは夏にはあまり流行しないという説があります。新型コロナウイルスが流行し始めた２月末ごろは、フランス、ドイツ、スペインも感染者が十数名だったのですが、当時、真夏だった南半球のオーストラリアで２２人の感染者が出ていたことから、”新型コロナウイルスは夏でも流行するのではないか”と言われていました。しかしその後、感染が世界に広がるようになって判ったことは南半球の国々では極端に死者数が少ないということでした。4月15日までは、スペイン、イタリアで100万人あたりの死者数が300名を超えていたのに、ブラジルの死者数は100万人あたり７人、オーストラリアは２人と統計的に有意なレベルで少なかったのです。北半球では、三寒四温でコートが手放せない頃で、南半球ではまだ残暑が残るくらいの時期だったからでしょう。そして、南半球にとって悪い現象ですが、５月に入って本格的に秋から冬を迎えるころ、新型コロナウイルス感染症での死者数が急増します。ブラジルの100万人あたりの死者数は３７人になり新型コロナウイルスは冬に流行する病気だと、統計は裏付けていると言えます。
　そしてもう１つは、日本人全体に新型コロナウイルスと戦うための習慣が根付いてきたことです。マスクを身に付け、ソーシャル・ディスタンスを言われた通りに保つように心がける、そして帰宅すると手をよく洗いうがいをする。新型コロナウイルスをきっかけに、われわれの行動は急速に変わりました。そして、この著者は『あまびえ』の絵が、全国に広がるころ、新型コロナウイルス感染症の日本での第一次流行は収まっているでしょうと、予言をしています。
　私もこの記事を読んで『あまびえ』の絵を描くことにより、いろいろな人たちが、人のことを思い自粛した生活の中、運悪く感染した方を誹謗・中傷すること無く、人の人権を尊重し、がんばって行きたいと考えます。
　この原稿が、発行される８月には新型コロナウイルス感染症の第一次流行が収束に向かっていることを願っています。（Ｓ）

四日市市からのメッセージ（2020年4月21日ホームページ掲載より）

　新型コロナウイルスの感染が国内でも相次いで確認される中、インターネットやソーシャルネットワーク（ＳＮＳ）などで、『感染された方やその家族』『その対策や治療にあたっている医療機関関係者とその家族』『海外からの帰国者』『わが国に居住する外国人』などに対する、根拠のない書き込み等が広がっているとの報道があります。
　またわたしたちは、見えないウイルスへの不安から、感染症が広がっている地域に住んでいる人など特定の対象を、嫌悪の対象としてしまうことがあります。

　新型コロナウイルスを理由とした、いじめ、偏見や差別につながる行為、誹謗中傷等は、決して許されるものではありません。

　市民のみなさまにおかれましては、不確かな情報や誤った認識に惑わされ、人権侵害に及ぶことのないよう、国や県・市が発信する正確な情報に基づき、冷静な対応を心がけるとともに、差別や偏見について考え、お互いの人権を尊重した行動をお願いします。